

令和4年度 評価結果

高田カトリック幼稚園

1. 園の教育目標

カトリックの「愛の教え」に基づいて、一人ひとりの人格を尊敬と愛情をもって受け入れるように努める。学校教育法・モンテッソーリ教育法を総合的に取り入れ、幼児それぞれの発達に応じた自主活動を行い、他の幼児や教師たちと楽しく関わりあいながら、ゆたかな人格形成ができる適切な手助けと環境を提供するよう努める。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- * 保育環境の充実と研修
- * 安全管理
- * 情報の共有、発信

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
* 保育環境の充実と研修 ・モンテッソーリ教育の実践園として、子ども達が自由を使って、生活できる環境をつくる。	<p>子どもがはじめて接する「社会」である幼稚園で、他者と出会い仲間をつくり、友情を育み、思いやりや協調性といった社会で生きていくために必要な基礎を身につけていける環境、一人ひとりの個性が大切にされるような環境をめざし、ありのままの自分を受け止めてもらえる安定した居場所となるよう、取り組んできた。</p> <p>○ 子ども達が自由を使って生活できる環境をつくっていく為、同年齢の一斉活動の時間を少なくするよう、教師間で話し合い、日常生活（自由選択活動）を大切にした行事のあり方、取り組み方を常に考えながら保育を行ってきた。</p> <p>△ しかし、子どもにとってはもっと長い細切れにならない自由選択活動の時間が必要であると感じた。以前より運動会やクリスマス会等の大きな行事の前は、横割り活動（一斉活動）の時間とのバランスをとるのが難しいとの反省が出されており、子どもが欲していることや姿を保護者の方にもっと伝え、1年を見通して園全体で行事のあり方について改善していく必要がまだまだあると感じた。</p> <p>○ 子どもが自立する保育を心がけてきた。また、子どもの活動がより豊かになるように、活動の展開に応じた環境を整えるように努力してきた。引き続き子どもから学び、環境を整えていきたい。</p>

<p>* 安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けがやアレルギー ・ 感染症予防、衛生管理 ・ 避難訓練 <p>* 情報の共有、発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの中に育っているもの、幼稚園の取り組みを、細やかに、保護者、教会や地域の方々に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 危険箇所、傷や怪我のリスクを考えて、子どもたちの動きを把握するように努め、遊びや活動の様子を見守った。 ○ 感染症予防についても何度も確認を行った。 また、マスクの着用、アルコール消毒、手洗いの指導、換気、健康チェック表の提出依頼、来園者の検温などによるスクリーニングなどを行い、予防に努めた。 △ オミクロン株の流行と共に、子どもやその家族、職員にもコロナの感染や濃厚接触者が出るなどで休園になったりしたため、予定の変更が多く、避難訓練も予定していた通りに行うことができなかった。 △ 地震・火災・不審者への対応・水害など様々な場面での危機管理について、子ども達への訓練の前に教職員間での研修・訓練が更に必要であり、次年度は、教職員の危機管理（特に南海トラフ沖の地震、豪雨での浸水等）に重点をおいて訓練と研修を重ねていきたい。 ○ コロナ禍で、なかなか幼稚園に足を運んでいただく機会の少ない保護者の皆様とのコミュニケーションを、心を込めて大切にとるよう努め、迅速な対応を心がけた。必要に応じて細やかに電話連絡や面談などを行うよう努めた。 ○ 園での様子を伝えるツールとして持ち帰っていただいている個人の記録の内容が、子どもの姿や成長が伝わる物になるようとの願いをもって書いた。 教育の内容や子どもの育ち・姿をもっと分かりやすい形で伝えていけるようにしていきたい。 ○ 保護者の方へ、子どもの様子や心の動きをもっと細やかに伝えていきたいと思う。そのための発信力を身につけ、園の取り組み、子どもの育ちを伝え、分かちあうことで、家庭との連携をさらにとっていきたい。
--	--

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	
良	保護者の方々のご理解・ご協力をいただき、教職員間で子ども達の姿を話し合いながら、子どもの日々の生活が安全で安心したものとなるよう、皆で模索しながらも思いを一つにして保育することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
* 保育環境の充実と研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の3年間、不自由だったり、できないことが多かったが、逆に工夫してできたこと、保育をみんなで見直し変わらない大切なものを確認し、変えたほうが良いことは新しい形で生み出してくることもできた。しかし、綿々と繋がって紡いできた縦割りクラスでの生活が途切れてしまった面も多々ある。コロナが終息しても子どもたちや保護者の状況はコロナ前と違うので、ただコロナ以前の状態に戻すのではなく、子どもたちの今、園での生活を新しい形で紡ぎ出していきたいと思う。 ・ モンテッソーリ教育実践園また京都モンテッソーリ教師養成コースの見学実習園として、引き続き研修を行い学び合っていく。 ・ 特別な配慮の必要な人への支援の仕方等について、更に皆で学んでいく。
* 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、安全への意識を高め、非常時に職員が連携して対応できるように体験的な研修を深めると共に、子ども達も年齢に応じた動き方ができるよう、方法を検討しながら引き続き避難訓練を実施していく。 ・ バスの添乗についても、機会あるごとにマニュアルを見直し、周知を図っていく。
* 情報の共有・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員間で互いに学び合い、情報を交換する時間を確保するため、時間の捻出について工夫する。 ・ 子ども達の園生活の中で、育っていく過程を大切にしていることや子ども達の姿を、様々な方法や機会を使って、保護者の方々、教会や地域へ発信し、園の保育内容や思いを知っていただけるようにさらに努める。

6. 関係者評価

○ 今年度も引き続きコロナ禍の中で、保育と感染予防対策の両立が大変だったと思いますが、その中で、先生方の園児や保護者への熱心で細やかな取り組みをされていることが伝わってきました。

○ モンテッソーリ教育以外にも様々な研修をされているとのことですが、どのような学びをされているのかも知りたいです。

→ 教育要領等を踏まえて、教育の質を高めるための知識や技能の向上を目的とした研修（特別支援教育、食育・アレルギー対応について、保育実践、技能を高める実技、マネジメント等について）に参加いたしました。

研修ハンドブックに研修の履歴を残し、研修俯瞰図をもとに各々がどのような学びをしてきたのか、また今後どのような分野の学びが必要かを確認しながら、さらに専門性を高められるように学びを続けていきたいと思えます。

○ 今年度は、展示会を見せていただきました。それぞれの月齢にあわせて工夫された作品を拝見させていただきました。いつも感じるのですが、前と同じものがなく、先生方の指導と努力に頭がさがる思いがしました。

○ 園児たちが1年を通して友達、先生と楽しかった園生活の最後に園児たちの成長のあかしを（目に見える部分）発表できるのが展示会だと思います。

目に見えるものの観察、手にとって感じるもの、そして体を動かすこと、空想や自分の思いを表すなど、園児の成長に合わせてプログラムが組まれていることは、日頃細心の指導をなさっている思いが伝わってきました。作品のひとつひとつについて、先生が園児と話し合ったことを、園児の思いをメモ書きにして添えてあったことに感心しました。日頃から園児と向き合っているから書けることばです。なかでも「平和」をテーマにした作品は感動しました。

→ これからも、子どもたちに真摯に向き合い、子どもたちの姿（言葉や様子など）から学びながら、きめ細やかな保育を行ってまいります。

○ 「自由を使う」という表現は、日常あまり聞き慣れない言葉です。違和感があったり、その内容や意味が理解されにくいと思えました。

→ モンテッソーリ教育を学ぶ場では、「子どもたちが『たっぷりな自由を使って』」と言った表現を用いられることが多々あります。これは、子どもたちが自由な時間の中で、自由意思を使って自分で選び、活動する。納得するまで繰り返し、集中するという現象の繰り返しの中で、子どもは成長していく。そのために自由が必要であり、「自由」をどのように捉え、実践の中で実現していくかは、大人にとって大きな課題です。

保護者の皆様や外部から園を見てくださいる方に、「自由」の意味と内容がよく伝わるようにわかりやすい表現や説明を用い、子どもたちの園での姿を通して伝えていけるように取り組んでまいりたいと思います。

○ 去年は、日本で通園バスの中の園児置き忘れが数件あり、大問題となりましたが、高田カトリック幼稚園として、どのように対策されているのかも知りたいです。

→ 通園バスの中に園児が置き去りにされるという痛ましい事故があったことを踏まえ、まずバス運行マニュアルを再点検し、運転手、添乗する教職員と、マニュアルの再確認をする機会を持ちました。乗車前の確認・乗車時の点呼確認・降車の際の点呼確認・降車後の確認の徹底、点呼の際には名簿への記入、複数での確認などについて特に共通理解を図り、実施しています。

年度始めには再度、運転手・添乗する教職員とマニュアルの確認を行います。

また、置き去り防止のための安全装置の設置を予約し、2023年4月中旬以降取り付け完了の予定です。